

令和3年度（令和2年度対象）

# 逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書

逗子市教育委員会



## 【 目 次 】

○はじめに		
1 趣旨	.....	5
2 点検・評価の対象	.....	5
3 点検及び評価の方法	.....	5
4 評価者	.....	5
○令和2年度の教育委員会の活動状況		
1 教育長及び教育委員	.....	11
2 教育委員会開催状況	.....	11
3 教育委員会審議案件	.....	11
4 教育委員 主な活動状況	.....	17
○点検・評価		
1 文化を新たに創造するまち 文化スポーツ課	.....	23
2 スポーツを楽しむまち 文化スポーツ課	.....	33
3 学校教育の充実したまち 学校教育課 療育教育総合センター	.....	41
4 子どもも大人も共につながり成長していくまち 社会教育課 図書館	.....	51
5 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち 療育教育総合センター	.....	67
6 誰もが心豊かに子育てできるまち 子育て支援課 保育課	.....	75
7 教育委員会への意見及び助言	.....	85



〇はじめに



## 1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)」において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないと規定されています。

本報告書は、この法律の規定に基づき、委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関する学識経験者の意見及び助言をいただき、点検及び評価を実施し、結果を報告するものです。

本市の特色ある教育施策を広く市民の皆さまにお知らせすることにより、教育現場における課題や取り組みの方向性を明らかにし、より一層効果的な教育行政の推進を図り、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

## 2 点検・評価の対象

教育委員会の権限に属する事務及び教育委員会が補助執行により行う事務について、逗子市総合計画実施計画(2015~2022)の各取り組みの方向に基づき設定した目標から点検及び評価の対象とします。

## 3 点検及び評価の方法

点検及び評価に当たっては、それぞれの目標に対する取り組み概要、自己評価、外部有識者の意見及び今後の課題と取り組みの方向性を記載したシートを作成しました。

そして、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の意見、助言を記載しています。

## 4 評価者

次の方々から、ご意見及び助言をいただきました。

佐藤 晴雄氏 (日本大学文理学部教授)

寶川 雅子氏 (鎌倉女子大学短期大学部准教授)

## 【参考】

### ○地方自治法（抜粋）

（教育委員会の職務権限等）

第百八十条の八 教育委員会は、別に法律の定めるところにより、学校その他教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱い及び教育職員の身分取扱いに関する事務を行い、並びに社会教育その他教育、学術及び文化に関する事務を管理し及びこれを執行する。

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育委員会の職務権限）

第二条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- 一 教育委員会の所管に属する第三十条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。
- 二 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。
- 三 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- 四 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。
- 五 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- 六 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- 七 校舎その他の施設及び教員その他の設備の整備に関すること。
- 八 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。
- 九 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。
- 十 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。
- 十一 学校給食に関すること。
- 十二 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。



- 十三 スポーツに関すること。
- 十四 文化財の保護に関すること。
- 十五 ユネスコ活動に関すること。
- 十六 教育に関する法人に関すること。
- 十七 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。
- 十八 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関する  
こと。
- 十九 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に  
関する事務に関すること。

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。



# ○令和2年度の教育 委員会の活動状況



## 令和2年度の教育委員会の活動状況

### 1 教育長及び教育委員

( )内は任期

教 育 長	大河内 誠 (令和 2.4.1～令和 5.3.31)
委 員 (教育長職務代理者)	村上 朝鼓 (平成 28.12.17～令和 2.12.16) (教育長職務代理者 令和元.11.13～令和 2.12.16)
	星山 麻木 (平成 29.12.1～令和 3.11.30) (教育長職務代理者 令和 2.12.17～)
委 員	若林 順子 (令和元.6.26～令和 5.6.25)
委 員	高橋 康 (令和元.12.3～令和 5.12.2)
委 員	福田 幸男 (令和 3.3.17～令和 7.3.16)

※ 平成 29 年度からは、平成 27 年 4 月 1 日に施行された、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づく教育長が任命されました。

### 2 教育委員会開催状況 (令和 2 年度実績)

定例会 1 2 回開催

### 3 教育委員会審議案件

<p>4月定例会 (書面開催)</p> <p>日程第 1 2月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第 2 3月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第 3 報告第 6 号 逗子市立体育館条例施行規則の一部改正について</p> <p>日程第 4 報告第 7 号 議案 (専決処分の承認について (令和元年度逗子市一般会計補正予算 (第 12 号))) 作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について</p> <p>日程第 5 報告第 8 号 教育委員会職員の人事について</p>
---

日程第6 議案第8号 令和3年度使用逗子市立小・中学校教科用図書採択方針について

日程第7 議案第9号 令和2年度工事計画の策定について

5月定例会（書面開催）

日程第1 4月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第9号 議案（専決処分の承認について（令和2年度逗子市一般会計補正予算（第1号））及び令和2年度逗子市一般会計補正予算（第2号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第4 報告第10号 教育委員会職員の人事について

日程第5 議案第10号 逗子市図書館協議会委員の任命について

日程第6 議案第11号 教育財産の取得の申出について

日程第7 その他

・各校の近況について

6月定例会（令和2年6月29日開催）

日程第1 5月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第11号 逗子市教育委員会事務決裁規程等の一部改正について

日程第4 報告第12号 逗子市母子・父子自立支援員の職務等に関する規程等の廃止について

日程第5 報告第13号 議案（令和2年度逗子市一般会計補正予算（第3号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第6 報告第14号 逗子市教科用図書採択検討委員会委員の任命について

日程第7 報告第15号 令和2年度逗子市奨学金受給者の給付決定について【非公開】

日程第8 報告第16号 令和2年度工事計画の変更について

日程第9 議案第12号 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び  
評価の実施方針について

日程第10 その他

- ・各校の近況について

7月定例会 （令和2年7月8日開催）

日程第1 教育長報告事項について

日程第2 報告第17号 教育委員会職員の人事について

日程第3 報告第18号 令和2年度逗子市奨学金受給者の追加給付決定について

【非公開】

日程第4 その他

- ・各校の近況について

8月定例会 （令和2年8月7日開催）

日程第1 教育長報告事項について

日程第2 議案第13号 令和3年度使用中学校教科用図書採択について

日程第3 その他

- ・各校の近況について

9月定例会 （令和2年9月25日開催）

日程第1 6月定例会会議録の承認について

日程第2 7月定例会会議録の承認について

日程第3 教育長報告事項について

日程第4 報告第19号 議案作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答  
について（専決処分の承認（令和2年度逗子市一般会計補正予算（第4号、第5号））及び令和2年度逗子市一般会計補正予算

(第7号) について)

日程第5 報告第20号 教育委員会職員の人事について

日程第6 その他

- ・各校の近況について
- ・逗子アートフェスティバル2020について
- ・スポーツの祭典2020について
- ・令和2年度 二十歳を祝う成人の集いについて

10月定例会 (令和2年10月29日開催)

日程第1 8月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第21号 教育委員会職員の人事について

日程第4 報告第22号 令和2年度逗子市奨学金受給者の追加給付決定について

【非公開】

日程第5 報告第23号 令和2年度工事計画の変更について

日程第6 その他

- ・各校の近況について
- ・図書館の利用について
- ・逗子市内一周駅伝競走大会について

11月定例会 (令和2年11月19日開催)

日程第1 9月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 議案第14号 逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について

日程第4 その他

- ・各校の近況について



- ・令和元年度 神奈川県児童・生徒の問題行動等調査結果（公立学校）における逗子市の調査結果について

1 2月定例会 （令和2年12月23日開催）

日程第1 10月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第24号 議案（令和2年度逗子市一般会計補正予算（第11号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第4 その他

- ・各校の近況について
- ・図書館の特別整理期間について
- ・二十歳を祝う成人の集いについて
- ・子育て情報誌について

1 月定例会 （令和3年1月22日開催）

日程第1 教育長報告事項について

日程第2 報告第1号 教育委員会職員の人事について

日程第3 その他

- ・各校の近況について
- ・逗子市学校施設の長寿命化計画（案）について
- ・二十歳を祝う成人の集いについて

2月定例会 （令和3年2月18日開催）

日程第1 11月定例会会議録の承認について

日程第2 12月定例会会議録の承認について

日程第3 教育長報告事項について

日程第4 報告第2号 議案（専決処分の承認について（令和2年度逗子市一般会計

補正予算(第13号)、令和2年度逗子市一般会計補正予算(第14号)及び令和3年度逗子市一般会計予算)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第5 報告第3号 教育委員会職員の人事について

日程第6 報告第4号 教育委員会職員の懲戒処分について【非公開】

日程第7 その他

・各校の近況について

3月定例会 (令和3年3月22日開催)

日程第1 1月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第5号 県費負担教職員の任免内申について【非公開】

日程第4 報告第6号 教育委員会職員の人事について

日程第5 議案第1号 逗子市立学校の教育職員の業務量の管理に関する規則について

日程第6 議案第2号 逗子市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を  
改正する規則について

日程第7 議案第3号 逗子市立体育館条例施行規則の一部を改正する規則について

日程第8 議案第4号 逗子市教育委員会事務分掌規則の一部を改正する規則について

日程第9 議案第5号 事務の委任及び補助執行について

日程第10 議案第6号 逗子市社会教育委員の委嘱について

日程第11 その他

・各校の近況について

・逗子市立小・中学校用地に接する斜面地定期点検結果について

・横浜市立図書館との相互利用のサービス開始について

#### 4 教育委員 主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
4月	定例会（書面開催）	
5月	定例会（書面開催）	
6月	定例会（6/29）	勉強会（6/29）
7月	定例会（7/8）	勉強会（7/8、7/30）
8月	定例会（8/7）	勉強会（8/7）
9月	定例会（9/25）	勉強会（9/25）
10月	定例会（10/29）	総合教育会議（10/29） 勉強会（10/29） 学校訪問（10/21、26）
11月	定例会（11/19）	学校訪問（11/9、10、11、16） 勉強会（11/19）
12月	定例会（12/23）	勉強会（12/23）
1月	定例会（1/22）	勉強会（1/22）
2月	定例会（2/18）	勉強会（2/18）
3月	定例会（3/22）	中学校卒業式（3/11） 勉強会（3/22） 小学校卒業式（3/19）



○ 点検 ・ 評価



点検及び評価の対象

取り組みの方向		目標（2022年度（令和4年度））		所管課
1	文化を新たに創造するまち	1	逗子アートフェスティバルの参加企画数が30 企画になっており、質の向上が図られている。	文化スポーツ課
		2	文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が90 パーセントを超えている。	文化スポーツ課
		3	ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が75 パーセントになっている。	文化スポーツ課
		4	文化プラザホールの入場者（観客）が年10 万人以上になっている。	文化スポーツ課
2	スポーツを楽しむまち	1	逗子市スポーツの祭典への参加者が延べ5,000人になっている。	文化スポーツ課
		2	「（仮称）スポーツに関する実態調査」において、成人の週1 回以上のスポーツ実施率が3人に2人（66.7 パーセント）となる。	文化スポーツ課
		3	総合型地域スポーツクラブ（うみかぜクラブ）の会員登録数が1,000 件になっている。	文化スポーツ課
3	学校教育の充実したまち	1	「お互いを認め合える学級づくり」が、すべての学級で行われている。	学校教育課
		2	すべての教員が「自己チェックリスト」を活用して授業と学級経営についての振り返りを行っている。	学校教育課
		3	個別支援が必要なすべての児童生徒に対し、支援シートが作成され、活用されている。	学校教育課
		4	ICT（情報通信技術）環境を整え、情報機器を活用した授業づくりをすべての教員が児童生徒のニーズに応じて行っている。	学校教育課
4	子どもも大人も共につながり成長していくまち	1	地域課題の解決に向けた人材育成のための講座やイベントが開催されている。	社会教育課
		2	社会教育講座等各種講座において、アンケート調査による、受講者評価が80 点を超えている。	社会教育課
		3	地域で子どもを育てる環境づくりの構築に向けた家庭教育講座が5回開催されている。	社会教育課
		4	市指定文化財の数が増加している。	社会教育課
		5	名越切通、長柄桜山古墳群第1号墳の整備が完了し、公開活用されている。	社会教育課
		6	文化財収蔵庫が設置され、遺物が適正に保管されている。	社会教育課
		7	図書館において、様々なテーマ設定により年間30回以上の図書の展示を行い、読書の推進を図る。	図書館
5	障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち	1	（仮称）療育・教育の総合センターで実施する相談及び障害児通所支援を利用したことのある子どもの、市内の18 歳までの子どもに対する割合が9.5 パーセントになっている。	療育教育総合センター
		2	（仮称）療育・教育の総合センターにおいて、障がいのある子ども、発達に心配のある子ども（0歳～18 歳）に対してライフステージに応じた継続的な支援が行われている。	療育教育総合センター
6	誰もが心豊かに子育てできるまち	1	子育てに関するポータルサイトのアクセス数が、2018（平成30）年度の年間アクセス数の20 パーセント増となっている。	子育て支援課
		2	逗子市体験学習施設「スマイル」の主催講座の年間延べ参加者数が2,000 人、年間延べ利用者数が60,000 人になっている。	子育て支援課
		3	「逗子市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」における子育ての環境や支援の満足度が25 パーセントになっている。	子育て支援課
		4	教育・保育施設等を希望する人すべてが、希望する施設を利用できる。	保育課
		5	ほっとスペースの年間延べ利用者数が26,000 人になっている。	子育て支援課





# 1 文化を新たに創造するまち

## （基本構想の取り組みの方向）

文化芸術は、生活に潤いや刺激を与え、共感や連帯を生み、人の心を豊かにします。さらに、新たな付加価値を生み出すなど、地域社会にとっても多様な可能性を秘めています。

わたしたちは、逗子の伝統文化を継承するとともに、潜在的な文化資源を掘り起こして、地域の文化を市民の手で拓き、互いを高め合い、育むことで、「まちが文化を活かし、文化がまちを活かす」地盤をつくります。そして、逗子の多彩な文化資源と恵まれた自然環境を背景に生まれる、個性的で創造的な文化芸術の力で、文化と自然がつむぐ活力あるまち（地域社会）の発展をめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —



# 評価シート

所管課：文化スポーツ課

## 目標【2022年度】

逗子アートフェスティバルの参加企画数が30 企画になっており、質の向上が図られている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	文化活動振興事業（逗子アートフェスティバルの充実）
事業内容	目的：文化と自然がつむぐ活力あるまちを実現させる。 手段：逗子アートフェスティバルをはじめとする文化振興事業を推進し、市民が主体的に実施する文化芸術活動について、後援等により支援する。また、逗子アートフェスティバル負担金を交付し、トリエンナーレとして事業を実施する。
実績	○逗子アートフェスティバル（ZAF）2020の開催 開催期間 10月9日（金）～10月25日（日） 来場者数 約12,000人 企画数 14企画 【内訳】 ・トリエンナーレイベント事業…2企画 ・インスタレーション事業…1企画※ ・池子の森の音楽祭 2020 事業…1企画 ・逗子文化プラザホール事業…3企画※ ・自由企画…7企画 ※インスタレーション事業1企画と逗子文化プラザホール事業3企画でオンラインを併用して開催（公演のオンライン配信、オンラインワークショップの開催等）。 実行委員会負担金 4,760,000円
自己評価	新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響により、中止や変更を要した企画も多く、全体での企画数は14企画と、目標に掲げていた30企画には及ばなかった。しかし、オンラインを活用する等の工夫により、コロナ禍でも参加可能なイベントとした。また、作品制作への市民参加等のイベントを通じた地域コミュニティの

## 評価シート

	活性化や、地域課題に着目した企画の開催等により、事業の質の向上は図られている。
外部有識者の意見	コロナ禍でも対策を講じ、開催可能な方法を検討したことは評価できる。また、活動に当たって市民が主体的に活動していることは、文化活動に携わる市民を増やし、将来的な地域文化の担い手の育成に貢献していると考えられる。一方で、メンバー以外の市民の参加や協力を促す方法については、今後も検討の余地がある。
今後の課題と取り組みの方向性	令和2年度の実績を基に、コロナ禍でも開催できる手法を今後も検討していく必要がある。また、市民の主体的な活動を支援するとともに、トリエンナーレ年における予算措置と、それ以外の年も含めた人的支援や、事業への協力等を継続していくことが求められる。

# 評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が90パーセントを超えている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	文化プラザホール維持管理事業
事業内容	目的：文化プラザホールの適切な管理、運営を行う。 手段：ホールを利用する人が快適に過ごすことができるよう、貸館業務を実施するとともに、警備、舞台運営を含めた必要な管理業務を行う。
実績	<p>○自主文化事業 当初計画 42 事業のうち 22 事業実施。 (20 事業は新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)の影響により中止)</p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり事業 … 4 件 (参加者アンケート満足度 91.4%)</li> <li>・トモイク事業 … 5 件 (参加者アンケート満足度 78.6%)</li> <li>・社会包摂事業 … 1 件 (参加者アンケート満足度 92.6%)</li> <li>・地域資源活用事業 … 6 件 (参加者アンケート満足度 84.3%)</li> <li>・鑑賞事業 … 6 件 (参加者アンケート満足度 82.7%)</li> </ul> <p>○文化プラザホール維持管理事業実績額 219,321 千円 (うち指定管理料 211,454 千円)</p>
自己評価	<p>目標の 90% に及ばない事業もあったが、コロナの影響で多くの事業が中止や計画変更を余儀なくされる中、対策を講じながら実施可能な方法を検討した。昨年度に引き続き、まちづくり事業のアウトリーチ活動で招いた講師がホールでの鑑賞事業を行う等、事業間で関連性を持たせ、ホールへの来場者増につなげた。トモイク事業では、公演と</p>

## 評価シート

	<p>併せてアウトリーチやワークショップを行い、コロナ禍でも文化芸術に触れる機会を提供した。社会包摂事業では、0歳から入場可能な公演を行い、親子でホールを訪れるきっかけを作った。</p>
外部有識者の意見	<p>コロナ禍でも実施可能な方法を検討し、鑑賞型事業のテーマに沿った各種講座やワークショップ等のまちづくり事業を実施したことは、文化芸術に接する機会の拡充につながるものとして評価できる。今後も、公演につながるワークショップやアウトリーチ等を行ったり、広報のあり方を工夫する等して、市民の関心を高めるよう努めてもらいたい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>指定管理業務に対するモニタリング等を通して事業の進捗や結果について把握するとともに、課題の把握と分析を指定管理者と協力して行っていく。</p>

# 評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が75パーセントになっている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	文化プラザホール維持管理事業
事業内容	目的：文化プラザホールの適切な管理、運営を行う。 手段：ホールを利用する人が快適に過ごすことができるよう、貸館業務を実施するとともに、警備、舞台運営を含めた必要な管理業務を行う。
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○貸館利用者アンケート               <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年1月4日～3月31日実施</li> <li>・「満足」「とても満足」合わせて83.3%</li> </ul> </li> <li>○利用者懇談会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年3月11日～4月18日 Web アンケートにて実施</li> </ul> </li> <li>○指定管理者とのモニタリングを毎月実施</li> <li>○新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）拡大防止に伴う臨時休館 令和2年3月4日（水）～6月30日（火）、 令和3年1月12日（火）～3月21日（日）</li> <li>○コロナに起因する予約キャンセルに伴う利用料金の還付（173件）</li> <li>○文化プラザホール維持管理事業実績額 219,321千円（うち指定管理料211,454千円）</li> </ul>
自己評価	ホールの貸館利用者満足度は微増し、引き続き高水準を維持した。ホール内のコロナ対策を十分に講じたことや、臨時休館、開館中の利用制限等についての指定管理者から利用者への丁寧な説明、柔軟な対応等により、利用者に安心感を持ってもらい、積極的な利用につながるよう心掛けた。

## 評価シート

外部有識者の意見	コロナの影響はあったが、その都度、利用者のニーズに合わせた運営を行ったことが窺える。今後も利用者の意見を把握し、柔軟な運営を行ってほしい。
今後の課題と取り組みの方向性	指定管理業務に対するモニタリング等を通してホールの運営状況や課題について指定管理者と共有し、解決に向けて協議していく。



# 評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
文化プラザホールの入場者（観客）が年10万人以上になっている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	文化プラザホール維持管理事業
事業内容	目的：文化プラザホールの適切な管理、運営を行う。 手段：ホールを利用する人が快適に過ごすことができるよう、貸館業務を実施するとともに、警備、舞台運営を含めた必要な管理業務を行う。
実績	○入場者数 23,170人 【内訳】 なぎさホール 16,065人 さざなみホール 7,105人 ○新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）拡大防止に伴う臨時休館 令和2年3月4日（水）～6月30日（火）、 令和3年1月12日（火）～3月21日（日） ○文化プラザホール維持管理事業実績額 219,321千円（うち指定管理料211,454千円）
自己評価	コロナ拡大防止による臨時休館や、開館中の利用制限等の影響により、実績が大幅に減少し、目標を達成できなかった。
外部有識者の意見	文化振興への貢献度を測る方法として、入場者数が評価の対象として相応しいかは検討の余地がある。 入場者数が減少した原因については、コロナ拡大防止に伴う休館や利用制限等によるものと考えられるが、コロナの影響は今後も続くことが予想されるため、安心して利用できる施設となるよう、市民ニーズを踏まえた運営について検証してほしい。

## 評価シート

今後の課題と 取り組みの方 向性	コロナの影響は今後も想定されるため、指定管理業務に対するモニタリング等を通してホールの運営状況や課題について指定管理者と共有し、把握する。さらに、コロナ禍での適切な運用と、入場者増に向けた取組みを続けていく。
------------------------	--

## 2 スポーツを楽しむまち

(基本構想の取り組みの方向)

わたしたちは、スポーツ都市宣言の理念に基づき、市民一人ひとりがスポーツに親しみ健康な心とからだをつくる「健康づくり」、みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり明るい生活を営むことができる「場づくり」、スポーツを通じていきいきとした地域連携の輪をひろげる「交流づくり」、スポーツを通じて活力に満ちたまちづくりを推進する「基盤づくり」を進めます。

一人でも多くの市民が、スポーツに親しみ、互いに高め合うことで、健康で豊かな生活を送ることができるよう、いつでも、どこでも、誰もが気軽にスポーツ、健康づくりができるまちをめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —



目標【2022年度】
逗子市スポーツの祭典への参加者が延べ 5,000人になっている。

令和2年度の取り組み

関係する事業名	スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）
事業内容	<p>目的：市民が生涯にわたって、生活の一部にスポーツを取り入れ、スポーツを楽しんでいくために、子どもから高齢者まで、すべての市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会を提供し、継続的にスポーツをするためのきっかけづくりとする。</p> <p>手段：逗子市スポーツの祭典実行委員会が主催し、逗子市スポーツ協会をはじめ市内スポーツ関連団体等と協働して、逗子市スポーツの祭典を開催する。</p>
実績	<p>○逗子市スポーツの祭典2020を開催          開催日時 10月18日（日）          開催場所 池子の森自然公園400mトラック          オンライン          参加者数 1,774人（前年度 2,494人）          イベント数 7種目（前年度 28 種目）          逗子市がホストタウンとなるスペインセーリングチームの本拠地サンタンデル（14,000 km）を目指す「フルフルマラソン」やオンライン企画「ずしキッズスポーツチャレンジ」等を実施した。          実行委員会交付金：270,000 円</p>
自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小したため、参加者数は目標に達することはできなかったが、コロナ禍においてもオンラインを活用する等の工夫をし、市民にスポーツをするきっかけを提供することができた。</p> <p>参加者アンケートでは71.4%が「スポーツの祭典がスポーツを始める（再開する）きっかけになる」と回答しており、実施による効果があった。</p>

<p>外部有識者の意見</p>	<p>コロナ禍で制約があるため参加者数の減少はやむを得ない。何よりもこの状況下で実施したことが評価できる。</p> <p>スポーツを人前でするのが苦手な人でも、オンラインを活用したことで、一人でもスポーツに取り組める環境を作れる等、オンラインの良さは気付かない以上にある。</p> <p>オンラインを活用した新たな運営方法を実践しており、障がいの有無にかかわらず、現地に行かなくても参加できる工夫が評価できる。</p> <p>唯一のリアル開催であった「フルフルマラソン」では、障がいのある方と健常者が同じフィールドで同じイベントに参加することができ、互いに応援する光景が見られる等、普段あまりできない体験をすることができていた。また、人数が多すぎないことで交流がスムーズに行われたという面もある。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーとして関連種目の体験メニュー等を取り入れていく。</p> <p>コロナ禍でも参加者安心してイベントに参加できる方法を検討する。</p> <p>スポーツに触れる機会の少ない方も気軽に参加できるアプローチを検討する。</p>

目標【2022年度】

「（仮称）スポーツに関する実態調査」において、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（66.7パーセント）となる

令和2年度の取り組み

<p>関係する 事業名</p>	<p>スポーツ推進事業（スポーツ支援体制の充実）</p>
<p>事業内容</p>	<p>目的：市民のスポーツによる健康づくりのための支援体制を構築する。 手段：スポーツによる健康づくりのための相談及び相談機会の情報提供を行う。また、スポーツ・健康づくりの教室、指導者等の情報収集及び運用方法等を検討する。</p>
<p>実績</p>	<p>○逗子アリーナ未病センターにて、逗子市スポーツ協会によるスポーツ健康相談等を実施した。 健康・体力相談 8回、相談者22人 （前年度 39回、相談者125人） ○逗子市スポーツ協会が市役所未病センターと連携し、スポーツによる健康づくりをサポートする場としての周知に努めた。 ○小学生のためのスポーツ団体一覧を作成し周知した。 市立小学校児童に配付、市ホームページの掲載、公共施設に配架。県ホームページ「プラネットかながわ（スポーツリーダーバンク）」にリンクを掲載した。 ○Zushi パーソナルトレーニングプログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。</p>
<p>自己評価</p>	<p>成人の週1回以上のスポーツ実施率は56.1%で、目標値と全国平均59.9%を下回ったが、令和元年度の54.6%を上回っている。 健康・体力相談については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施回数は減少したが、施設の休館等の制限がある中でも一定の相談に応えることができています。</p>

<p>外部有識者の意見</p>	<p>コロナ禍における施設の休館等により参加者数は減少しているが、未病センターのスポーツ健康相談は自分の生活を振り返る良い機会となっている。気軽に相談できる体制や保健師及び健康運動指導士による丁寧な対応は今後も継続されたい。</p> <p>スポーツ団体一覧をきっかけにスポーツ少年団等の加入につながっていることは評価できる。コロナ禍における子ども達の運動につなげる取り組みであり継続されたい。また、スポーツの祭典などで体験ブースを設けて気軽に体験できるとスポーツを始めるきっかけにつながると考えられるため、そのような機会が更に増えるとよい。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>引き続き保健師と健康運動指導士との連携を図るとともに、Zushi パーソナルトレーニングプログラム等の成果が測れるような仕組みを検討する。</p> <p>県のスポーツリーダーズバンクに加え、スポーツ庁が開始した「ここスポ」の活用を進める。</p>



目標【2022年度】
総合型地域スポーツクラブ（うみかぜクラブ）の会員登録数が 1,000 件になっている。

令和2年度の取り組み

関係する事業名	（逗子市スポーツ協会の自主事業）										
事業内容	<p>目的：生涯にわたって、誰もが気軽にスポーツを楽しみながら、健康維持・増進と地域の交流を深めることに寄与する。</p> <p>手段：逗子市スポーツ協会、「うみかぜクラブ」との協議により高齢者向けスポーツのプログラムを含む各種教室を実施する。</p>										
実績	<p>○うみかぜクラブの会員登録数及び参加者数を増やすため、メニューの見直しを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新メニューの導入（ボッチャ&amp;吹き矢、ボディメンテ、シニアヨガ）</li> <li>・全メニュー数 19 件（前年度 16 件）</li> <li>・延べ開催数 398 回（前年度 761 回）</li> <li>・延べ参加者数 11,014 人（前年度 21,136 人）</li> <li>・会員登録数</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>542 件 (633 人)</td> <td>544 件 (614 人)</td> <td>440 件 (498 人)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○高齢者体カアップ体操等は、会場の保健センターが使用できず中止した。</p>			年度	H30	R元	R2	件数	542 件 (633 人)	544 件 (614 人)	440 件 (498 人)
年度	H30	R元	R2								
件数	542 件 (633 人)	544 件 (614 人)	440 件 (498 人)								
自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、会員登録数は440件と目標値を大幅に下回った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により施設の休館等の制限がある中、メニューを増やして、高齢者の参加につなげている。</p> <p>新メニュー「シニアヨガ」は、高齢者の体力に合わせて運動強度を抑えた内容が好評であった。</p>										

<p>外部有識者の意見</p>	<p>コロナ禍において高齢者の登録者数は減少しているものの、地域に根差した活動の結果として500人近くもの会員数であることは評価できる。</p> <p>コロナ禍において多くの総合型地域スポーツクラブが縮小して活動が制限されている中、うみかぜクラブは非常に積極的に事業展開している。筆習い等の文化メニューで参加者の増加を図る等、メニューの見直しをしながら、経営の自立化もできている。自立化はある程度事業の規模数がないと難しいが、上手くバランスをとりながら運営できている。</p> <p>メニューの参加人数だけで評価するのではなく、各メニューの参加者に満足度をアンケートし満足度を評価に取り入れながら事業展開していくことが好ましい。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>引き続き、逗子市スポーツ協会と協議し、コロナ禍でも安心して参加できるメニューの設定等を図り、新規会員が増加する環境づくりを進めていく。</p>

### 3 学校教育の充実したまち

(基本構想の取り組みの方向)

人は自然と社会の中で生涯学び続けていくことが必要です。その入り口の一つとして学校教育は大きな役割を果たすものです。今日、価値観の多様化や高度な情報化社会の中にあって、子どもたちが身につけなければならない力は多岐にわたっています。これまで受け継がれてきた知識や文化・伝統などを踏まえ、地域社会や家庭と連携し人間性溢れる教育、限りある命を生きていることの素晴らしさを感じることができる教育を行っていくこと、そしてこれからの国際社会の一員として生きていく力を養うことが必要です。

いつの時代にも変わってはならない本質の部分の土台に、その時々々の教育的課題に臨機応変に対応して、「豊かな人間性」・「確かな学力」・「健康な心身」を目標として『自ら考え、心豊かに、たくましく生きる逗子の子ども』の育成を図ります。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —



# 評価シート

所管課：学校教育課

目標【2022年度】
「お互いを認め合える学級づくり」が、すべての学級で行われている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	教員の授業力・学級経営力・児童・生徒指導力向上重点事業
事業内容	<p>目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共に学び共に育つ教育を推進し、温かい人間関係を構築しながら、お互いに認め合える集団をつくる。</li> <li>・いじめなど問題行動に対して、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を学校組織として推進する。</li> </ul> <p>手段：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握に向けて生活アンケートを定期的に実施する。</li> <li>・成長段階に応じて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を取り入れられるようなアドバイスおよび提案を行う。</li> <li>・支援教育推進巡回チームなど専門機関によるコンサルテーションを活用して集団作りにあたる。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症防止対策による一斉臨時休業の関係で、例年以上に各学校における、集団づくりには配慮が必要となり、支援教育推進巡回チームや教育指導教員を含めた教職員全体で児童・生徒を見守る体制整備を要請した。</li> <li>・学校再開後も様々な行事が中止となり、児童・生徒の体験的な学びの場や地域の方々との交流の場が減った。行事については、これまでの実施方法を見直し、各学校が規模縮小や時間短縮など工夫しながら実施した。</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において感染症予防対策を図りながら、児童・生徒の学びの保障、行事等の実施について、校長会議等で情報共有しながら取り組むことができた。</li> </ul>

## 評価シート

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業中にスクールカウンセラーが学校再開後の児童・生徒との関わり方や指導等の注意点について、心理の立場から資料作成や研修を実施し、再開後の学級づくり等に活かすことができた。</li> </ul>
<p>外部有識者の意見</p>	<p>○昨年度初めに休校であったことで、保護者や児童・生徒の中に不安が広がったこともあったが、どの学校も教育相談コーディネーターを中心に教職員が一丸となってサポートを続けた様子が見えたと感じた。</p> <p>○多様な児童・生徒・保護者になってきているので、支援の充実が急務であり、人材確保も必要だと思う。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍というこれまで、体験したことのない状況の中で、これまでの指導方法や行事などを見直すきっかけとなった。教職員が児童・生徒と向き合う時間確保のため、引き続き行事の精選や会議、研修等の実施方法の見直しを行う。</li> <li>・新しい生活様式の中で、ICTの活用や行事の精選などを進めながら子どもたちの豊かな学びを進めていく。</li> </ul>

# 評価シート

所管課：学校教育課

目標【2022年度】
すべての教員が「自己チェックリスト」を活用して授業と学級経営についての振り返りを行っている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	教員の授業力・学級経営力・児童・生徒指導力向上重点事業
事業内容	<p>目的：各市立学校において、「わかりやすい授業」や「お互いを認め合う学級づくり」などに関する教員の指導力向上を図り、予防的な指導・成長を促す指導・課題解決的な指導を推進することによって、児童・生徒の健全育成をより一層図る。</p> <p>手段：①年3回Googleフォームにより実施し、分析をしてもらうよう校長会議等諸会議で依頼②支援教育推進巡回チームや教育指導教員による助言・指導に活用する。</p> <p>内容：授業・学級経営・児童・生徒指導・人権感覚の自己チェックリスト活用を図り、教育指導教員や支援教育推進巡回チームと改善策を協議する。</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業」「学級経営」についての自己チェックリストをすべての教員が年3回実施した。</li> <li>・管理職が自己チェックリストの分析を行い、必要に応じて、教員に対して指導・助言を行った。</li> <li>・「授業」に関するチェックリストをもとに、教育指導教員と支援教育推進巡回チームがフィードバックを行った。</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から、Googleフォームで自己チェックリストを実施したため、集計や分析が容易になった。</li> <li>・分析結果がウェブ上で見ることが出来るため、支援教育推進巡回チームや教育指導教員が確実に結果を確認することができ教職員へのフィードバックに活かすことができた。</li> </ul>

## 評価シート

外部有識者の意見	<p>○限られた状況の中で、各校できることを考え取り組んでおり、今後も前向きに授業改善に取り組んでほしい。また、今年度の取組が今後の体験活動の充実につながることを期待する。</p> <p>○教育指導員については、細かなところを見てフィードバックしてくれ、クラスの変化についても、客観的に見てのアドバイスがあるのでよい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"><li>• 自己チェックリストによる教員の自己評価と授業観察を行った巡回チーム等の評価にギャップがあった際に、そのギャップを埋めるためにも、より具体的な手立てを提示できるような工夫が求められる。</li></ul>



# 評価シート

所管課：学校教育課

## 目標【2022年度】

個別支援が必要なすべての児童・生徒に対し、支援シートが作成され、活用されている。

## 令和2年度の取り組み

<p>関係する 事業名</p>	<p>教育相談事業・就学事務事業</p>
<p>事業内容</p>	<p>目的：  <ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な就学を図るために、就学予定者の適切な就学指導を行う。</li> <li>小・中学校に在籍する支援を必要とするすべての児童・生徒について、支援シートを作成し、日常的な支援に活用する。</li> </ul> </p> <p>手段：  <ul style="list-style-type: none"> <li>就学支援委員会において支援が必要な児童・生徒への適切な支援について協議する。審議資料として支援シートを活用する。</li> <li>支援を必要とする児童・生徒について、学校・家庭・福祉が連携して支援シートを作成し、日常的な支援に活用していく。</li> </ul> </p> <p>内容：就学支援委員会に係る費用  <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会医師報酬 91千円</li> </ul> </p>
<p>実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度の就学相談件数は未就学47件、既就62件、計109件あった。</li> <li>就学相談を行った未就学児童の保護者に対し、支援シート作成の協力を依頼したところ、47件中42件作成され、小学校へ引き継がれた。</li> <li>昨年度逗子市就学支援委員会の審議件数は61件あった。</li> </ul>
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学相談の件数は年々、右肩上がりに増えてきている。就学相談担当は丁寧な就学相談を行い、保護者との合意形成図っているが、件数の多さから、担当の負担も大きい。</li> <li>支援シートは、特別支援学級在籍児童・生徒、通級指導教室通室児童については、100%の作成だが、不登校児童・生徒、その他支援が必要な児童・生徒の支援シート</li> </ul>

## 評価シート

	の作成が少ないため、啓発が必要。
外部有識者の意見	<p>○支援教育については、各校における体制づくりや教職員の理解が進んでいるが、まだ支援が十分ではない事例も見られるため、学校と教育委員会が一体となり、支援の在り方について理解を図り支援教育が充実することを望む。</p> <p>○各学校の実態に応じた課題に対し、それぞれ組織的に取り組むことができているが、十分な信頼が得られていないケースも見受けられるためさらなる充実を望む。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 支援シート＝特学や通級の児童・生徒のものではなく、支援を必要とするすべての児童・生徒にとって有効なツールであることを、教育相談コーディネーター担当者会等で、改めて説明していき、啓発に努める。</li> <li>• 支援シートを改めて啓発していく際に、どういう場面で活用するかも含めて、教職員の理解を図っていく。</li> <li>• 丁寧な就学相談を行っていくために、増加している件数に見合った相談体制を検討していく必要がある。</li> </ul>

目標【2022年度】
ICT（情報通信技術）環境を整え、情報機器を活用した授業づくりをすべての教員が児童・生徒のニーズに応じて行っている。

令和2年度の取り組み

関係する事業名	教育用コンピュータ維持管理事業
事業内容	<p>目的：・児童・生徒への情報教育の促進を図る。 ・教員の指導力の向上を図る。</p> <p>手段：・授業力向上を目的とした研修を設定する。 ・課題等の情報共有・上記目的達成に繋がる協議を目的とした、教育情報化推進会議を開催する。</p> <p>内容：・コンピュータその他周辺機器等の維持管理 ・授業力向上研修 ・教育情報化推進会議開催 ・校内研究の実施</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国のGIGAスクール構想の補助金を受け、市立小・中学校に高速通信ネットワークと一人1台の端末を整備した。</li> <li>・端末の整備に伴い、授業での活用が期待されるアプリの使用方法等の研修会を実施した。</li> <li>・教育情報化推進会議が中心となり、教育情報化推進ガイドラインを作成し、端末の扱いや個人情報の管理、情報リテラシー等について教職員に対し周知徹底した。</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想で、児童・生徒一人1台の端末が整備され、今後授業での活用が期待される。</li> <li>・活用に向けては、国や県からの情報を学校へ周知や、先進事例の紹介をする程度であったが、実践的、体験的な研修の機会がもっとあるとよい。</li> </ul>
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクールにより整備されたタブレットについて、2月から活用が始まったばかりだが、各校、各先生方が工夫し活用が進んでおり、次年度の教育情報化が一段と進むことが期待できる。</li> </ul>

今後の課題と 取り組みの方 向性	<ul style="list-style-type: none"><li>• 授業における端末の活用が、教員間あるいは学校間で差が出ないように、研修会の実施や、学校間の垣根を超えた情報共有の手段など工夫が必要。</li><li>• 教育情報化推進ガイドラインの作成は行ったが、全体の情報セキュリティポリシーの作成が急がれる。</li></ul>
------------------------	---

## 4 子どもも大人も共につながり成長していくまち

(基本構想の取り組みの方向)

わたしたちは、将来像の中で「人間を大切にするまちでありたい」とうたっています。この理念の実現のためには、市民一人ひとりが地域に愛着を持ち、まちづくりに積極的に関わる「ひとづくり」がその第一歩となります。

社会教育の充実をめざして、過去から附託された人類共通の財産である文化財を適切に保存し、未来に引き継いでいくとともに、現代的課題や地域課題について、共に学び、個を高め合う機会を広く市民に提供し、学校、地域、家庭のつながりを強化していくことで、地域社会、さらには世界に貢献できる「ひとづくり」に市民と共に取り組んでいきます。

わたしたちは、子どもも大人も共につながり成長していくまちの実現をめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —



# 評価シート

所管課：社会教育課

## 目標【2022年度】

地域課題の解決に向けた人材育成のための講座やイベントが開催されている。

## 令和2年度の取り組み

関係する 事業名	各種講座事業（地域課題）
事業内容	<p>目的：市民の高度な学習要求に応えるため、逗子の歴史や文化財、現代的課題、地域課題等の学習機会を提供する。市民の学習活動やまちづくり、ひとづくりの講座を開催することで、地域活動等へのデビューのきっかけづくりを行い、地域の課題を地域で解決できる人材育成をめざす。</p> <p>手段：逗子の歴史や文化財、現代的課題の講座、地域の課題を地域で解決するための人材を育成する講座等を開催する。</p> <p>内容：・サードエイジ連続講座 業務委託料（1講座・全4回） 100,000 円 ・逗子の歴史と文化財講座 講師謝礼金 60,000 円</p>
実績	<p>・サードエイジ連続講座 逗子の魅力を楽しく学び、友人・仲間を見つけ、学んだ知識を地域社会へ活かすことを目的とした「サードエイジ連続講座」を平成27年度から引き続き開講し、第6期目となった。NPO法人逗子まちなかアカデミーと協働により実施。各回の内容は次のとおり。</p> <p>第1回：逗子の歴史を学びま専科「末裔が語る逗子にわたっての三浦一族」</p> <p>第2回：コンピューターについてチョット知ってみま専科「孫と一緒にプログラミング!」</p> <p>第3回：健康を意識しま専科「健やかなサードエイジ食生活のヒントとコツ」</p> <p>第4回：逗子ゆかりの画家を訪ねま専科「知られざる二大巨匠 小磯良平&amp;吉野谷幸重」</p>

# 評価シート

	出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点
第1回	33名	87.9%	79.3%	92.3点
第2回	19名	100.0%	94.7%	85.6点
第3回	17名	100.0%	82.4%	88.2点
第4回	31名	83.9%	69.2%	87.3点

・ 逗子の歴史、文化財に関する講座  
 地域に対する知識と理解を深めることで地域づくりに繋がる人づくりに向けた動機づけとすべく、郷土の自然と歴史、文化遺産を学習する機会を提供し、市民の自主的な学習活動や地域活動のきっかけづくりとした。  
 講師は、本市文化財保護委員会委員、および社会教育課会計年度任用職員。

① 「鎌倉時代の貿易陶磁器と日本陶磁器について  
 一鎌倉と周辺遺跡の出土品を中心に」  
 ② 「中世鎌倉地方の美術と中国文化」  
 ③ 「徳富蘆花と関寛斎」

	出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点
①	32名	93.8%	70.0%	80.9点
②	28名	89.3%	76.0%	81.8点
③	26名	96.2%	88.0%	84.9点

・ サードエイジ連続講座は、年々、受講者が企画側に参加しているなど、講座修了生の活動の場となっている。当該講座については、委託先のNPO法人による主宰イベント等において、受講者の地域参画をサポートするなど、人材育成に寄与している。  
 ・ 歴史と文化財講座は、高齢者の関心が高く、元気な高齢者づくりの効果が期待できる。  
 ・ 本市文化財保護委員会に講師依頼し、地域に根差した文化財について学ぶ機会は、非常に貴重と考える。

自己評価



## 評価シート

外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>• 地域の歴史と絡めて地域を知るための興味深い講座が開催できた。</li><li>• 人材育成や地域活動のきっかけとして、サードエイジ連続講座の取り組みは評価できる。ワークショップやフィールドワークを設ける、若い世代を対象にするなどの工夫をしながら、いっそう充実させて欲しい。</li></ul>
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"><li>• 人材育成に係る講座は、短期的な効果が見えにくいですが、受講者を企画側に取り込むなど、フォローアップができるNPO 法人と継続的に連携、実施することで、修了生の活動について中長期的に検討していく。</li><li>• 地域課題に取り組むことができる人材育成について、近隣他市の社会教育事業をリサーチしながら中長期的な視点で展開していく。</li><li>• 少子高齢化社会で、元気な高齢者こそが、地域社会の重要な構成要素であることから、関心の高い人文系の講座は継続的に実施する。</li></ul>

# 評価シート

所管課：社会教育課

## 目標【2022年度】

社会教育講座等各種講座において、アンケート調査による受講者評価が80点を超えている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	人権教育等事業
事業内容	目的：人権問題について正しい理解を深める。 手段：人権啓発事業を実施する。 内容： 人権教育啓発用パンフレット印刷費 157,000 円
実績	人権啓発リーフレット「暮らしの中の人権」を作製。市内中学校生徒・教員等に配付した。 以下の3講座を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。 ①「子どもの人権～子どもが大切にされるってどんなこと？」 ②「“me too” から見える日本の性暴力の現状」 ③「生きてるだけですごいだ！不登校・ひきこもりから考える子どもの多様な学びと育ち」 また、例年開催していた「全国中学生人権作文コンテスト逗葉地区入賞者の表彰と朗読」および上映会（市民協働課、葉山町と共催）は中止となった。
自己評価	市長部局、近隣自治体、市民団体と共催・連携して実施することで内容の充実を図っている。 多様な人権課題において、まちなかにおける「暮らしの中の人権」にフォーカスしてパンフレットを製作した。製作過程で、人権団体などの協力を得ながら、判りやすいパンフレットが発行できた。
外部有識者の意見	人権講座はコロナ禍のため実施できなかったが、企画内容自体はニーズや関心に沿う適切なものであった。次年度は開催方法を工夫しての実施を期待したい。

## 評価シート

今後の課題と 取り組みの方向性	人権教育・啓発に関する機会を継続的に設けていく。取り上げる人権課題については、普遍的な人権課題に、新たに発生している現代的な人権課題も含めて啓発していく。
--------------------	---

# 評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
地域で子どもを育てる環境づくりの構築に向けた家庭教育講座が5回開催されている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	家庭教育講座事業																												
事業内容	<p>目的：家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力の向上を図る。</p> <p>手段：家庭教育の向上を図り、地域全体で家庭教育を支えるため、子育て中の保護者及び子育てに関する地域活動に関わる人たちへの支援を行う講座を企画し開催する。</p> <p>内容：</p> <p>講師謝礼金 115,000 円</p> <p>交流センター会議室等使用料 21,500 円</p>																												
実績	<p>次の4講座を開催</p> <p>① 「コロナ禍と子どもの生活」（全4回） 第1回「コロナ禍をどう過ごしたか：家庭の経済状況と子どもの生活変化」※第2回～4回は中止</p> <p>② 「子どもと養育者のための心理学」</p> <p>③ 「ダメでいい、ダメがいい 子どもはいつも輝いている」</p> <p>④ 「ダメでいい、ダメがいい！学びの本質」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>出席者数</th> <th>アンケート回収率</th> <th>点数記載率</th> <th>平均点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>13名</td> <td>92.3%</td> <td>83.3%</td> <td>90.0点</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>22名</td> <td>100.0%</td> <td>95.5%</td> <td>88.1点</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>68名</td> <td>100.0%</td> <td>88.2%</td> <td>97.2点</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>32名</td> <td>100.0%</td> <td>81.3%</td> <td>96.8点</td> </tr> </tbody> </table> <p>以下の4講座については、企画・募集まで行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、中止とした。</p>					出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点	①	13名	92.3%	83.3%	90.0点	②	22名	100.0%	95.5%	88.1点	③	68名	100.0%	88.2%	97.2点	④	32名	100.0%	81.3%	96.8点
	出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点																									
①	13名	92.3%	83.3%	90.0点																									
②	22名	100.0%	95.5%	88.1点																									
③	68名	100.0%	88.2%	97.2点																									
④	32名	100.0%	81.3%	96.8点																									

## 評価シート

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「コロナ禍と子どもの生活」 第2回「コロナ感染を予防する保育者の対応と工夫～保育士さんと考える不安な時に家庭でできること」</li> <li>第3回「子育て支援拠点における親子の居場所としての取り組み」</li> <li>第4回「コロナ禍の中で考えたいこと今後の子どもの生活・子育てのストレス、そして地域の連携」</li> <li>• 「楽しく子育て！なかまづくりから始めませんか？」</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 関東学院大学教授の監修による全4回の子育て連続講座（12月～3月）を企画したが、2～4回目については、緊急事態宣言の発出により、中止せざるを得なかった。開催した4講座は、保護者のニーズと合い、アンケート結果も概ね好評であった。</li> </ul>
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コロナ禍の子育てをテーマにした講座が中止となったのは残念であった。開催できた講座は反響も高く、講師やテーマ設定も良かった。</li> <li>• 子育ての段階により課題も多様なので、今後もより良い企画提供と参加しやすい対応に努めて欲しい。</li> </ul>
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 連続講座を企画する際には、テーマと受講対象の絞り込み、周知の方法に工夫をしていく。</li> <li>• より幅広い視点とテーマで家庭教育に関する講座行うべく、現代的課題の要素のある講座内容については、より自由度の高い「各種講座事業」へ、事業予算の一部を移行した。</li> </ul>

# 評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
市指定文化財の数が増加している。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	文化財保護委員会経費
事業内容	目的：専門的な考察に基づいて文化財保護行政を推進する。 手段：諮問等を通じて学識者の意見を徴取する。 内容：文化財保護委員会の運営 市指定文化財の新規指定に向けた調査の実施
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護委員会を開催し、新規指定に向けた検討及び意見聴取を行った（3回）。</li> <li>学識者に依頼し指定候補物件の調査を行った（1件）。</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度以後は新規指定を行っていないが、この間慎重に検討を重ねてきた候補物件の学術的な位置づけを明らかにし、指定に向けた諸条件を整えることができた。</li> </ul>
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補物件の学術的な調査がなされ、その価値が明らかになったことは評価できる。</li> <li>文化財保護意識を高めるためにも毎年指定することが重要なので、計画的に取り組みを進めることが望ましい。</li> <li>学校教育と連携を図るなどして公開活用を進めてほしい。</li> </ul>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>関連予算を確保し、毎年継続的に新規指定を実現していくとともに、様々な機会をとらえて指定文化財を市民に公開する。</p>

# 評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
名越切通、長柄桜山古墳群第1号墳の整備が完了し、公開活用されている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	名越切通維持管理事業
事業内容	目的：国指定史跡名越切通の保存活用を図る。 手段：指定地の環境を適切に維持管理し公開する。 内容：まんだら堂やぐら群の公開 植生管理、施設補修 など
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>まんだら堂やぐら群限定公開を実施した（秋期のみ。初夏は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）。 公開日数 25日 入場者数 3,248人 寄附金 215,565円</li> <li>除草、樹木伐採、路面整備等を適宜行った。</li> <li>破損した道標を修復した。</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡全体の維持管理を適切に実施した。</li> <li>まんだら堂やぐら群秋期公開は例年並みの来場者があり、概ね好評を得た。</li> <li>公開管理運営を業務委託し、事務の効率化を図った。</li> </ul>
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>まんだら堂やぐら群は、植生の影響により遺構保存への支障が懸念される。文化財保護を目的とした効果的な植生管理を考慮すべきである。</li> </ul>
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡全体の維持管理を適宜行う。</li> <li>まんだら堂やぐら群限定公開について、より適切な管理運営体制を検討する。</li> </ul>

# 評価シート

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	名越切通整備事業
事業内容	<p>目的：国指定史跡名越切通を適切に整備する。</p> <p>手段：整備実施計画に基づき、国庫補助事業として計画的に執行する。</p> <p>内容：整備検討会の開催 遺構保存のための設計、監理、施工</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まんだら堂やぐら群C群のうち、劣化したやぐら7基の亀裂をモルタルで充填する等の保存工事を行った。</li> <li>• 老朽化して危険の生じた木製階段1基を更新した。</li> <li>• 民間施設に隣接する斜面の崩落対策設計を行った。</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国庫補助金の縮減や市の財政事情により年次計画が順延しているため、2022年度の整備完了は難しい状況だが、しゅん工に向けて着実に進捗している。</li> <li>• 斜面对策については、立地上の制約に係る困難な諸条件を精査・検討し、関係者との協議を整えることができた。</li> </ul>
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コロナ禍でも保存整備が順調に実施されたことは評価できる。</li> <li>• 計画期間における当面の目標達成だけでなく、本質的な文化財保護の重要性を絶えず庁内外に発信し続けることが大切である。</li> <li>• まんだら堂やぐら群C群については、地形、土壌層、植生等について詳細な現地調査を行った上で公開活用の方法等を検討することが望ましい。</li> </ul>
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 石造文化財の保存修理にかかる貴重な知見を適切に整理し、整備完了時すみやかに整備報告書を刊行する必要がある。</li> <li>• まんだら堂やぐら群C群は十分な安全を確保することが難しいため、公開活用の方法について慎重な検討を要する。</li> </ul>



# 評価シート

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	古墳整備事業
事業内容	<p>目的：国指定史跡長柄桜山古墳群を適切に整備し、維持管理する。</p> <p>手段：整備実施計画に基づき、国庫補助事業として計画的に執行する。指定地の環境を適切に維持管理する。</p> <p>内容：整備検討会の開催 遺構保存及び活用のための設計、監理、施工 植生管理、修景伐採 など</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 整備検討会を2回開催し、施工内容を検討した。</li> <li>• 実施設計に則り、第1号墳整備工事（舗装工、路盤工、植栽工ほか）を行った。</li> <li>• 除草等の維持管理を適宜行った。</li> <li>• ボランティアによるパトロールを行った（通年、71回）。</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国庫補助金の縮減や市の財政事情により年次計画が順延しているため、2022年度の供用開始は難しい状況だが、しゅん工に向けて着実に進捗している。</li> <li>• 植生管理を業務委託し、適切な環境整備を行った。</li> </ul>
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コロナ禍にあっても第1号墳の保存整備は順調に進んでいる。</li> <li>• 第2号墳についても、限られた予算で最大の効果が現れる形で整備できるよう、また周辺住民の理解が得られるよう努力して頂きたい。</li> </ul>
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第2号墳の現状を把握し、史跡全体の整備活用について検討する必要がある。</li> <li>• 周辺住民から住環境への十分な配慮を求められていることを踏まえ、今後の事業全般にわたり市町関係所管との十分な連携を図る。</li> </ul>

# 評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
文化財収蔵庫が設置され、遺物が適切に保管されている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	池子遺跡群保護事業
事業内容	<p>目的：市民が地元の歴史に触れることができるよう、出土資料の公開活用を図る。</p> <p>手段：池子遺跡群発掘調査資料等を適切に保存・整理し展示公開する。</p> <p>内容：池子遺跡群資料館の運営、維持管理 所蔵資料保存処理</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間開館日数 195日 来館者数 627人</li> <li>資料6点（木製品1点、金属製品5点）の保存処理を実施した。</li> <li>長柄桜山古墳群出土品（埴輪）を旧郷土資料館から移設し展示した。</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急事態宣言に伴う4カ月半に及ぶ臨時休館の影響で、来館者数は前年比2分の1以下に減少した。</li> <li>展示の一部を見直したが、更に内容の充実を図る必要がある。</li> <li>文化財収蔵庫について具体的検討は進まなかった</li> </ul>
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が文化財をより身近に感ずることができるよう、市役所ロビーなどで少しでも展示することが望ましい。</li> <li>公共施設の統廃合などの機会を含め、総合的な展示・収蔵場所確保のための情報収集や検討を行って欲しい。</li> </ul>
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>池子を中心としつつ郷土史にかかる総合的な展示となるよう、内容の更新や特別展示等を検討する。</li> <li>収蔵庫について、当面は既存施設内の整理や移動等によりスペース確保に努めるとともに、公共施設の統廃合等の機会を含め、新たな場所の確保を検討する。</li> </ul>

# 評価シート

所管課：図書館

## 目標【2022年度】

図書館において、様々なテーマの設定により、年間30回以上の図書の展示を行い、読書の推進を図る。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	図書館活動事業																												
事業内容	<p>目的：読書普及のための図書館活動を積極的に展開し、利用者が読書に親しむ機会の提供とレファレンスサービス（調べもの相談）の充実など図書館利用の促進を図る。</p> <p>手段：展示やイベントを継続的に行い、また Twitter 等を通じて積極的に情報発信をする。</p> <p>内容：目標にある「年間30回以上の図書展示」を行うにあたり、時事や地域性を考慮し、利用者が読書への興味を持つ展示を行う。</p>																												
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>登録状況</b> 登録者数（内、2年度新規登録者） 40,428人（1,408人）</li> <li>• <b>貸出状況</b>  <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">貸出者数</th> <th style="text-align: center;">貸出点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館</td> <td style="text-align: right;">126,062人</td> <td style="text-align: right;">312,665点</td> </tr> <tr> <td>分室</td> <td style="text-align: right;">15,406人</td> <td style="text-align: right;">35,129点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">141,468人</td> <td style="text-align: right;">347,794点</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>• <b>展示</b>  <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>図書館</td> <td style="text-align: center;">61回</td> <td style="text-align: center;">（一般41回</td> <td style="text-align: center;">児童20回）</td> </tr> <tr> <td>小坪分室</td> <td style="text-align: center;">8回</td> <td style="text-align: center;">（一般8回</td> <td style="text-align: center;">児童0回）</td> </tr> <tr> <td>沼間分室</td> <td style="text-align: center;">13回</td> <td style="text-align: center;">（一般7回</td> <td style="text-align: center;">児童6回）</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">82回</td> <td style="text-align: center;">（一般56回</td> <td style="text-align: center;">児童26回）</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">*一般展示には、郷土・健康医療・臨時・追悼・高齢者・名画座・視聴覚を含む。</p> </li> </ul>		貸出者数	貸出点数	図書館	126,062人	312,665点	分室	15,406人	35,129点	合計	141,468人	347,794点	図書館	61回	（一般41回	児童20回）	小坪分室	8回	（一般8回	児童0回）	沼間分室	13回	（一般7回	児童6回）	合計	82回	（一般56回	児童26回）
	貸出者数	貸出点数																											
図書館	126,062人	312,665点																											
分室	15,406人	35,129点																											
合計	141,468人	347,794点																											
図書館	61回	（一般41回	児童20回）																										
小坪分室	8回	（一般8回	児童0回）																										
沼間分室	13回	（一般7回	児童6回）																										
合計	82回	（一般56回	児童26回）																										

## 評価シート

<p>自己評価</p>	<p>緊急事態宣言の発出に伴い、図書館、両分室の開館日数が大幅に減少したが、展示については目標値を達成した。</p> <p>外出を控える利用者に向けて、自宅での受け取りが可能となる送料実費負担による図書宅配サービスの実施や、返却期間の延長など、読書に親しむ機会の提供と利用促進に努めた。</p>
<p>外部有識者の意見</p>	<p>緊急事態宣言やまん延防止等重点措置といったコロナ禍における施設運営は、感染防止対策を図りながらのサービス提供となり、苦慮する点が多かったと推察する。</p> <p>そのような状況下でありながらも、図書展示の開催回数は、前年度と同様に目標値を達成しているだけでなく、展示資料の貸出回数が多い。特に健康・医療の展示はこのコロナ禍も影響しているのか、利用者の関心度の高さが伺える実績となっている。利用者が求めている資料展示になったものと評価できる。また、分室においては、スペースが狭く小さな展示でも、凝ったテーマで目を引き興味を持ってもらえるよう工夫していることが伺え、図書館と同様、充実した展示となっている点が評価できる。</p> <p>ただし、未だ収束の兆しが見えないコロナ禍においては、来館ありきのサービス提供のみでは十分といえない。全国的に電子図書館等の導入も進む現在、逗子市立図書館においても ICT を活用した新たなサービス提供を検討していくことを期待する。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>目標である年間 30 回以上の展示については、コロナの影響下ではあったが、目標値を達成している。展示内容についても、時事・地域性などに考慮して、利用者が求めている資料展示や脚光を浴びることの少ない資料紹介の展示を行うことで、展示内容によっては相当数の貸出件数となったことから、今後は実質的な利用数である貸出等についての数値目標も検討していきたい。</p> <p>子どもから大人まで全ての利用者が利用できる図書館サービスの提供に努めていき、家庭や地域、学校、更にはコミュニティセンター。子育て、高齢者などの関係機関や団体と連携して、読書を通じてつながる、より幅広い年齢層への取り組みを進めていきたい。</p> <p>また、ツイッターや図書館ホームページ等を通じて、積極的な情報発信を行うとともに、ICT を活用した新たなサービス提供についても今後の課題として検討してゆく。</p>

## 5 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち

(基本構想の取り組みの方向)

これまでわたしたちが築いてきたノーマライゼーションとリハビリテーションの理念を継承し、障がいのある人もない人も、誰もが分け隔てられることなく、「地域で自分らしく生きるため」「安心して納得できる生き方を求めて」、それを実現していくことができるまちづくりを進めます。

障がいのある人を取り巻く環境は、複雑化、多様化しています。誰もが生まれてからずっと安心して暮らし続けられるよう、ライフステージに応じた一貫した支援体制を充実するとともに、災害等緊急時の備え、バリアのない環境づくりを進める必要があります。

また、道路や施設等の整備だけでなく、こころのバリアフリーも実現し、障がいのある人ない人、団体、地域などあらゆる主体が支え合えるようなまちづくりを進めます。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —



# 評価シート

所管課：療育教育総合センター

## 目標【2022年度】

（仮称）療育・教育の総合センターで実施する相談及び障害児通所支援を利用したことがある子どもの、市内の18歳までの子どもに対する割合が9.5パーセントになっている。

## 令和2年度の取り組み

<p>関係する 事業名</p>	<p>療育推進事業</p>
<p>事業内容</p>	<p>目的：障がいのある子どもや発達に心配のある子ども及びその保護者が、生涯安心して地域で生活できるよう支援する。</p> <p>手段：子どもの人権を尊重し、一人ひとりの子どもが現在及び将来ともにその持てる力を十分に発揮した生活が営めるよう教育と連携した総合的な支援を行う。相談機能を充実させ、学齢期も含めたワンストップ相談受付ができる体制を整え、保護者や支援者の幅広いニーズに応じる。新たな療育体制を構築し、専門性を向上するとともに、教育との連携を強化し、就学後も継続した支援を行う。</p> <p>内容：療育相談員・専門員等報酬 32,427,553円          アドバイザー等経費 1,265,000円          光熱水費 2,279,259円          センター療育部門委託料 57,077,491円          送迎車両賃借料 1,632,960円</p> <p style="text-align: right;">ほか</p>
<p>実績</p>	<p>○療育教育総合センターの運営          【相談体制の充実】          ＊相談件数 6,101 件 相談者数 605 人          ・市民向け公開講座、ひなたワークショップ及びペアレントプログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、開催を中止した。          ・保育所、幼稚園等への定期巡回相談による支援者支援（延べ24回／対象児実人数106名／延べ数142名）</p>

## 評価シート

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 療育相談員、専門員等の配置 （SW2名、学齢期担当相談員1名、心理士3名、言語聴覚士4名、理学療法士1名、作業療法士3名、保育士2名、保健師1名、嘱託医3名）</li> <li>【教育等関係機関との連携】</li> <li>• 学校への定期巡回相談による支援者支援 （延べ15回／対象児実人数39名）</li> <li>• 支援シート作成会議への参加 （延べ1回／対象児実人数15名）</li> <li>• 学校へのコンサルテーション （延べ88件）</li> <li>• 就学予定児の情報連携会議 （延べ8回）</li> <li>• 学齢期担当相談員による各学校との情報共有のほか、就学相談説明会の実施及び校長・教頭会議、教育相談CD担当者会議、特別支援学級担当者会議、幼保小連携会議等への出席</li> <li>【療育機能の充実】</li> <li>• 児童発達支援事業の実施 （実人数35名／延べ1,348回利用）</li> <li>• 放課後等デイサービスの実施 （実人数46名／延べ636回利用）</li> </ul> <p>○市内の18歳までのセンターにおける相談・サービス等利用者の割合 12.3%</p>
<p>自己評価</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、中止せざるを得ない事業もあったが、支援が途切れることのないように電話やオンライン等を活用しながら、利用者の不安解消や関係機関との連携を図ったことにより、センター利用者の割合は順調に推移している。</p>
<p>外部有識者の意見</p>	<p>事業進捗状況については目標を達成している。相談部門だけでなく療育部門（くろーばー）も共に、学校（教育）と福祉の連携について、さらに進めてもらいたい。</p>



## 評価シート

今後の課題と 取り組みの方向性	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した事業に関しては、with コロナ社会に対応した手法を検討していく。</p> <p>教育と福祉の連携については、相談部門と療育部門で一丸となり、今後のセンターのあり方を検討した上でより一層推進していく。</p>
--------------------	---

# 評価シート

所管課：療育教育総合センター

## 目標【2022年度】

（仮称）療育・教育の総合センターにおいて、障がいのある子ども、発達に心配のある子ども（0歳～18歳）に対してライフステージに応じた継続的な支援が行われている。

## 令和2年度の取り組み

<p>関係する 事業名</p>	<p>療育推進事業</p>
<p>事業内容</p>	<p>目的：障がいのある子どもや発達に心配のある子ども及びその保護者が、生涯安心して地域で生活できるよう支援する。</p> <p>手段：子どもの人権を尊重し、一人ひとりの子どもが現在及び将来ともにその持てる力を十分に発揮した生活が営めるよう教育と連携した総合的な支援を行う。相談機能を充実させ、学齢期も含めたワンストップ相談受付ができる体制を整え、保護者や支援者の幅広いニーズに応じる。新たな療育体制を構築し、専門性を向上するとともに、教育との連携を強化し、就学後も継続した支援を行う。</p> <p>内容：療育相談員・専門員等報酬 32,427,553円          アドバイザー等経費 1,265,000円          光熱水費 2,279,259円          センター療育部門委託料 57,077,491円          送迎車両賃借料 1,632,960円</p> <p style="text-align: right;">ほか</p>
<p>実績</p>	<p>○療育教育総合センターの運営          【相談体制の充実】          ＊相談件数 6,101 件 相談者数 605 人          ・市民向け公開講座、ひなたワークショップ及びペアレントプログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、開催を中止した。          ・保育所、幼稚園等への定期巡回相談による支援者支援（延べ 24 回／対象児実人数 106 名／延べ数 142 名）</p>

## 評価シート

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 療育相談員、専門員等の配置 （SW2名、学齢期担当相談員1名、心理士3名、言語聴覚士4名、理学療法士1名、作業療法士3名、保育士2名、保健師1名、嘱託医3名）</li> <li>【教育等関係機関との連携】</li> <li>• 学校への定期巡回相談による支援者支援 （延べ15回／対象児実人数39名）</li> <li>• 支援シート作成会議への参加 （延べ1回／対象児実人数15名）</li> <li>• 学校へのコンサルテーション （延べ88件）</li> <li>• 就学予定児の情報連携会議 （延べ8回）</li> <li>• 学齢期担当相談員による各学校との情報共有のほか、就学相談説明会の実施及び校長・教頭会議、教育相談CD担当者会議、特別支援学級担当者会議、幼保小連携会議等への出席</li> <li>【療育機能の充実】</li> <li>• 児童発達支援事業の実施 （実人数35名／延べ1,348回利用）</li> <li>• 放課後等デイサービスの実施 （実人数46名／延べ636回利用）</li> </ul> <p>○市内の18歳までのセンターにおける相談・サービス等利用者の割合 12.3%</p>
自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止せざるを得ない事業もあったが、支援が途切れることのないように電話やオンライン等を活用しながら、利用者の不安解消や関係機関との連携を図ることで、ライフステージに応じた継続的な支援を推進することができた。</p>
外部有識者の意見	<p>事業進捗状況については目標を達成している。相談部門だけでなく療育部門（くろーばー）も共に、学校（教育）と福祉の連携について、さらに進めてもらいたい。</p>

## 評価シート

今後の課題と 取り組みの方 向性	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した事業に関しては、with コロナ社会に対応した手法を検討していく。</p> <p>教育と福祉の連携については、相談部門と療育部門で一丸となり、今後のセンターのあり方を検討した上でより一層推進していく。</p>
------------------------	---

## 6 誰もが心豊かに子育てできるまち

### （基本構想の取り組みの方向）

急速な少子化の進行や、家庭や地域を取り巻く環境の変化、地域とのつながりの希薄化の中で、心豊かに子育てをするためには、子育てに対する不安や孤立感を減らし、子育ての喜びを実感できることが必要です。子育てを親が主体的に行えるよう、まち全体で子育てを応援し、住みなれた地域で安心して子どもを生み育てることのできる総合的な支援体制の充実をめざします。

さらに、家庭環境や雇用形態の多様化などを踏まえ、家庭と地域や学校等が相互に協力し、まちを生かした豊かな遊びと学びの環境を整え、すべての子どもが愛され信頼されることを通じて、次世代を担う子どもたちが、心身共にたくましく生きる力と豊かな人間関係を培うことができるよう、地域と共に育むまちづくりをめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —



# 評価シート

所管課：子育て支援課

## 目標【2022年度】

子育てに関するポータルサイトのアクセス数が、2018年度の年間アクセス数の20パーセント増となっている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	子育てネットワーク構築事業
事業内容	<p>目的：子育てに関する情報の一元化、総合化を行い、子育て情報の提供を充実させる。</p> <p>手段：子育てに関するポータルサイトを構築し、インターネットを活用した情報の発信と収集を一元的、総合的に行う。</p> <p>内容：子育てポータルサイト「えがお」の運営 子育てに関わるネットワーク会議の運営</p>
実績	<p>○子育てポータルサイト「えがお」のアクセス数139,040件/年（11,586件/月）</p> <p>○子育てネットワーク会議（年2回）は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。</p> <p>○子育てポータルサイト内「えがおレポート」と子育て応援紙「陽だまり」に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から取材活動を令和2年中は中止していたが、メールでの情報交換により編集作業を続けた。</p> <p>○新型コロナウイルスの影響で、一時的に子育て支援センターの「子育てひろば」を閉所していたが、えがおレポートやえがおFacebookを活用し情報発信を行った。</p>
自己評価	<p>昨年度に比べポータルサイトのアクセス数が下回っている。</p> <p>しかし、新型コロナウイルスに関する各種情報、特に予定していた行事等が中止や変更になる情報は速やかに提供した。</p>

## 評価シート

外部有識者の意見	新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた行事を中止せざるを得なくなり、ポータルサイトへのアクセス数が減ったことは仕方のない事だと思うが、特に転居後間もない保護者には有効であることを考えると、今こそオンラインも活用した情報発信を行い、アクセスしたいと思える魅力あるコンテンツ提供の工夫をされたい。
今後の課題と取り組みの方向性	新型コロナウイルスの影響により、世間での自粛ムードの高まり、本来予定していた行事の中止等から、ポータルサイトへのアクセスが減ったものとする。 今後も、より一層、魅力あるコンテンツを提供できるよう工夫していく。



# 評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】
逗子市体験学習施設「スマイル」の主催講座の年間延べ参加者数が2,000人、年間延べ利用者数が60,000人になっている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	体験学習施設講座等事業
事業内容	目的：児童青少年の健全育成に資するため、今までに経験したことのない、また、興味をもってもらえるようなことについて体験する講座を開催する。 手段：各講座の実施 内容：主催講座謝礼金 238 千円
実績	【主催講座年間延べ参加者数】 330 人 13 講座実施 【年間延べ利用者】 9,862 人（2019年度 33,758 人） 体験学習施設利用者数 児童青少年 1,172 人 大人 84 人 池子ほっとスペース 利用者数 8,606 人
自己評価	新型コロナウイルス感染症対策として、緊急事態宣言下は体験学習施設を休館や、利用人数の制限を設けた中で開館した。また、多くの講座、イベントについても中止を余儀なくされたため、目標を大幅に下回ってしまっている。
外部有識者の意見	休館や利用制限という状況の中でも、工夫し実施していることは評価できる。 今後も、子どもたちの安全安心に配慮し、魅力ある講座を期待したい。
今後の課題と取り組みの方向性	感染対策をしっかりと取り組み安心できる環境を整えながら、子どもたちを引き付ける講座の内容を更に工夫し、充実させていきたい。

# 評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】
------------

「逗子市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」における子育ての環境や支援の満足度が25 パーセントになっている。
---

※「逗子市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」は、5年に一度実施することとなっており、令和元年度は実施しなかった。直近である平成 30 年度実施の調査では、子育ての環境や支援の満足度が24.15 パーセントであった。

# 評価シート

所管課：保育課

目標【2022年度】
教育・保育施設等を希望する人すべてが、希望する施設を利用できる。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	施設型給付事業、保育所入所措置事業、地域型給付事業、幼児教育・保育無償化給付等事業
事業内容	<p>目的：経済的理由により、希望する教育・保育施設等を利用できないことが無いよう支援する。</p> <p>手段：幼児教育・保育の無償化による給付を実施する。</p> <p>内容：経済的負担を軽減することにより希望する施設を利用できるよう、市内の幼児教育・保育施設に対し、受入児童の年齢や人数に応じた給付費を支払う。</p>
実績	<p>施設型給付事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給付額 937,563,318 円</li> <li>・ 給付対象人数 10,605 人（延べ人数）</li> </ul> <p>地域型給付事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給付額 150,210,970 円</li> <li>・ 給付対象人数 715 人（延べ人数）</li> </ul> <p>幼児教育・保育無償化給付等事業（令和元年10月から）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給付額 191,840,076 円</li> <li>・ 給付対象人数 667 人</li> </ul>
自己評価	<p>保育施設に関しては、待機児童が発生する状況にあったが、保育所以外の利用も検討するよう相談に応じ、できる限り希望に沿うようにした。結果として、令和2年度から令和3年度にかけて待機児童数は減少した（令和2年4月1日時点：22人→令和3年度4月1日時点：5人）。</p> <p>幼児教育・保育の無償化が始まったことにより、経済的な理由に左右されることなく希望する施設を選択できるようになった。</p> <p>施設の種別が多様化し、保護者が受けさせたい教育を選べるようになった。</p>

## 評価シート

外部有識者の意見	<p>新制度に移行した幼稚園があり、選択肢が増えたことは歓迎される。一方で、ニーズに対する確保量の不足があることは懸念材料である。</p> <p>コロナ禍で収入減少世帯が多く見込まれる中、保育ニーズが高まることと思われる。手を緩めず、確保に努めていただきたい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>教育・保育施設等の利用について、施設の多様化、保護者のニーズの多様化に対し利用者に寄り添いながら柔軟に対応していく。</p>

# 評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】
ほっとスペースの年間延べ利用者数が26,000人になっている。

## 令和2年度の取り組み

関係する事業名	ほっとスペースの運営 (ふれあいスクール事業)
事業内容	目的：乳幼児の子育てを支援することを目的としてほっとスペース事業を実施。 手段：ほっとスペースの開設 内容：ふれあいスクール・サブ・アシスタントパートナー 報償金等 53,673 千円
実績	◎開設日数 61日(逗子) 31日(久木) 115日(小坪) 122日(沼間) 244日(池子) 計 573日  ◎延べ利用者数 ・逗子ほっとスペース 1,010人 ・久木ほっとスペース 113人 ・小坪ほっとスペース 129人 ・沼間ほっとスペース 585人 ・池子ほっとスペース 8,606人  計 10,443人(2019年度 17,795人)
自己評価	新型コロナウイルス感染症の影響で休館及び予約制による人数制限をしていたため、昨年度と比較しても大幅に利用者数が減少している。 施設の情報は、広報ずしやホームページ、メールマガジンなどで、発信しており、新たな利用者の確保をするため、利用ニーズの掘り起こしに取り組んでいく。

## 評価シート

外部有識者の意見	<p>コロナ禍による休所や利用制限により、目標が達成できなかったことは仕方ない。</p> <p>本施設は、乳幼児の子育てをして、悩んでいる保護者にとって貴重な資源として考える。</p> <p>感染対策にしっかりと取り組み安心できる環境を整えながら、相談の場所として、また、ピアカウンセリングの場所としても貴重な資源として。今後も機会を多く提供できるように工夫してほしい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>逗子や久木においては、ふれあいスクール事業との併用職員や併用の部屋といった、サービス提供体制上の制約があり、今後はふれあいスクールや学童保育のサービス提供体制の検討にも取り組んでいく。</p> <p>また、感染対策をしっかりと取り組んだうえで、乳幼児の子育てをして、悩んでいる保護者ための環境を整えていきたい。</p>

## 7 教育委員会への意見及び助言





令和2年度については、新型コロナウイルスの影響により、各種施策・事業に一定の制限が加わったことから、数値目標が達成できなかったと思われるが、同時に、ウィルス対応としての新たな工夫が加えられた点は評価できる。

### 1. 文化を新たに創造するまち

アートフェスティバル、文化プラザホールはコロナ禍において14企画が実施されたことは評価できる。オンラインの活用は今後も十分あり得るだろうが、やはり対面式またはこれに近い形で実施できるような準備を今後も続けられたい。文化プラザホールの自主事業の満足度は90%近くに達しているが、この数値は日常生活での制約の中で市民が文化・地域活動を求めていることの証だと解せる。したがって、これら施設の運営については引き続き充実と運営の工夫を目指していくことが課題になる。

### 2. スポーツを楽しむまち

スポーツはむしろコロナ禍では不可欠な活動に位置づくと言ってよい。スポーツの祭典、支援体制の充実、協会の自主事業などは規模こそ縮小されたが、ある程度実施できたことの意義は大きい。規模縮小とは言え、心身の健康のためには直接実施できた点は高く評価できる。

### 3. 学校教育の充実したまち

「お互いを認め合える学級づくり」については、コロナ禍での集団づくりに力点を置いた点は評価できる。ただ、アンケート結果についても記して欲しい。

教員「チェックリスト」は指導力向上に有効であり、Googleフォームの活用は集計業務等の軽減につながる意味でも有効である。今後、これを活用した時系列的処理の結果のフィードバックを期待したい。

就学相談件数の増加は、対象者が増えたのか、相談体制の充実によるのかは一概に判断できないが、必要とする市民にサービスが行き届きつつある点で評価できる。今後は担当者の負担軽減の工夫が求められる。

GIGA スクールによる端末1人1台の配布が完結したことは評価

できる。今後、端末の効果活用を促す研修の充実や授業モデルの提供などが求められる。

#### 4. 子どもも大人も共につながり成長していくまち

社会教育の学習事業の学習課題については、必要課題と要求課題に分けられるが、人権問題や地域課題は必要課題に属するだろう。この必要課題は極めて重要だが、市民が学習したいと求める要求課題は自己実現を促すことから充実を図ることが大切である。

各種講座は地域課題とされているが、改めて要求課題の視点も重視されたい。家庭教育講座は一部中止されたが、有意義であることから、参加意欲が低い層への働きかけの工夫を図りたい。

文化財保護に関しては、まんだら堂やぐら群の限定公開に3千人を超える入場者を得たことはそれだけ市民の関心が高いことがうかがえる。今後も遺構保存の工夫を検討されたい。

図書館については、30回以上の図書展示を実施したことは評価できる。緊急事態宣言下では開館日数の制約も受けたが、直接来館することは図書等文化資本に触れる機会になることから、可能な限り開館することが望ましい。

#### 5. 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち

総合センターの相談事業は、コロナ禍にあって電話やオンライン等の活用によって数値目標を上回る結果を得たことは評価できる。相談者には直接訪問による相談を躊躇う者もいるだろうから、コロナ禍か否かに関わらずオンライン等の工夫をさらに続けることを期待したい。

子どもに対するライフステージに応じた支援については、多様なスタッフの配置や連携方法の工夫などによって支援が充実していると評せる。

#### 6. 誰もが心豊かに子育てできるまち

子育てポータルサイトへのアクセス数は昨年度に続いて減少しているようだが、コロナ禍にあってはむしろ増えてもよいはずであるから、改めてその原因を究明して欲しい。

スマイル主催講座は、コロナ禍のために参加者数が目標値をはるかに下回っているが、これはやむを得ないであろう。また、未参加

層の取り組みの工夫が課題になる。

\*\*\*\*\*

コロナ禍にあっては、感染防止策の取組はもちろん、①事業の中止、②規模の縮小、③実施形態の変更、④代替事業の採用などの工夫が求められる。全体的に見て、「事業の中止」や「規模の縮小」に伴い「実施形態の変更」(オンラインやアウトリーチの採用)や「代替事業の採用」(クラブメニューの見直し、学校の臨時休業中のカウンセラーの活用、図書館の送料実費負担による宅配など)によって事業を継続させ、市民に教育サービスを提供できるよう工夫したと評価できる。

今後、新型コロナウイルスの蔓延を単なる「禍」と捉えるにとどまらず、新たな学び・多様な学びを創出する機会でもあるという考え方から、各種施策・事業の展開と充実を期待したい。

なお、数値目標については、年度毎に設定し、順次最終目標に達するような設定が事業「経営」の視点からは効果的だと考えられる。

今年度も、昨年度に続きコロナウィルス感染防止対策を講じながらの取り組みになりました。

### ○ 文化を新たに創造するまち

アートフェスティバルは、オンラインを活用し、コロナ禍でも参加可能なイベントになるよう工夫されたことは評価できます。今後も様々な開催方法を模索し、地域コミュニティの活性化の一助となることを期待いたします。また、メンバー以外の市民参加・協力については、引き続きその方法を検討していただきたい。

文化プラザ維持管理事業は、事業間の連携が満足度にも影響していると考えられますので、事業間の連携充実を継続して行っていただきたい。社会包括事業での、0歳児から参加できる講演は、母子にとってありがたい企画だと思われる。引き続き、0歳児期の母子が参加できる機会を設けていただきたい。

文化プラザホール維持管理事業においては、貸館利用者満足度が微増した様子が窺える。指定管理者の利用者への丁寧な対応が一因とも考えられる。一方で、入場者数が大幅減少している。コロナウィルス感染防止対策を講じながらの事業展開であったという理由のほかに減少の原因がないのかを検討してもよいと思われる。

### ○ スポーツを楽しむまち

逗子市スポーツの祭典は、オンラインも活用し工夫をしながらの開催が、結果として、市民にスポーツに取り組むきっかけづくりとなったようである。効果的なオンラインの活用方法だったことが窺える。引き続き、スポーツに触れるきっかけづくりとなるようなアプローチの検討に期待したい。

スポーツ推進事業では、スポーツ協会と未病センターとの連携を深め、スポーツ支援体制の充実を図っていただきたい。

逗子市スポーツ協会の自主事業は、コロナ禍にあってメニュー等の工夫をしたことが高齢者の参加につながっているようである。引き続き、参加者のニーズに応じたメニュー設定に期待したい。

### ○ 学校教育の充実したまち

教職員全体で、保護者・児童・生徒をサポートする体制を整えたことは、「お互いを認め合える学級づくり」の第一歩になっているのではと考えられる。今後は、ICTの活用にも期待したい。

教員の指導力向上のためには、PDCA (Plan Do Check Action) サイクルが必要かと考えられる。「自己チェックリスト」の活用は、自身の振り返りに役立つツールの一つだと考えられる。振り返りがその後の指導力向上につながっていることを願う。

#### ○ 子どもも大人も共につながり成長していくまち

人権に関しては、年々社会的認知度も増してきた。引き続き、皆が理解できる内容に工夫していただき、人権教育・啓発に努めていただきたい。

家庭教育講座事業の中には、やむなく講座開催を中止したものがあつた。コロナと子どもの生活をテーマとしており、タイムリーな内容であつたと考えられる。それだけに、参加希望者も多くいたのだと推察される。コロナウイルスが流行し、一斉休校、在宅ワーク等が開始されたこともあり、全国での虐待相談件数が増加傾向にある現在、このようなテーマでの講座開催は、広い意味での虐待防止、子育て支援につながる。今後は、オンライン等可能な方法で開催が実現できることに期待したい。

平成30年度以降、市指定文化財の新規指定が行われていないとのことだが、候補物件の指定に向けた条件が整ったとの評価から、今後の取り組みに意識を向けていきたい。

名越切通整備事業では、斜面崩落対策設計を行っている。昨今、異常気象による災害が増加していることから、人名にもかかわるため早急な対応をお願いしたい。

古墳整備事業では、ボランティアが年間71回のパトロールを行ってくださっているとのこと。市民の皆様の善意に感謝したい。

図書館活動事業では、利用者ニーズに応じた展示等の工夫がされている。今後は、ICT等の機器を導入した取り組みにも期待したい。

#### ○ 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち

療育推進事業では支援が途切れないような配慮を心掛けたことが評価できる。今後は、相談・療育両部門の連携及び学校との連携、その他関係機関との連携を丁寧に行い、一層子どもが安心して生活できる環境を提供していただきたい。

#### ○ 誰もが心豊かに子育てできるまち

子育てネットワーク構築事業におけるポータルへのアクセス数が減少した

とのこと。今一度、利用者の立場に立ち、使いやすさ等を確認してみてもいかがでしょうか？

体験学習施設講座等事業は、制約のある中で、工夫して取り組んだことが評価できる。どのような状況であっても子どもは成長していく。「できない」のではなく、「今できることを行おう」という前向きな意識で取り組んでほしい。

## ○ まとめ

昨年度の経験と反省を生かし、コロナ禍においても様々な方法における開催等の実現に向けた取り組みを模索していたことが窺えます。「コロナ禍だからできない」のではなく「コロナ禍でもできることは何か」という、前向きな姿勢が今回の実績にもつながったのだと考えられます。今後も、可能性の模索をしていただけることに期待いたします。

目標を数値で設定し、それに伴い、数値から評価をしていくことも大事です。加えて、数値では読みとれない事態を把握・分析し、それらも鑑みた次年度の取組ができることを願っております。



逗子市教育委員会 教育部教育総務課

〒249-8686

神奈川県逗子市逗子5-2-16

TEL046-873-1111

FAX046-872-3115

E-mail [kyouiku@city.zushi.lg.jp](mailto:kyouiku@city.zushi.lg.jp)